

名[英語名]						
陽明学入門[An Introduction to the Teachings of Wang Yang-ming]						
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]						
吉田健一[099-285-3756]						
E-Mail	k5621643@kadai.jp		受講対象	全		
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 1 分野	開講期	前期水曜 2	単位等 2
共同担当教員名						
教育目標のキーワード						
視野・判断力・探求能力/						
学習目標(学生の達成 目標)						
儒学やその一つの流れの思想である陽明学について、基本概念を学ぶ。陽明学思想のもつ本質的な性格上、教養・知識として「陽明学」を知ることはさほど意味がないので、常に主体的に自らの「良知」に従って、物事を判断する姿勢を養う。また、人間にとって、一番大事なものは「志」であり、指導者や責任ある立場に就こうとする人間にとって必要なものは「責任意識」である、という事を、歴史上の人物から学び、自分自身ならどう生きたか？と常に問いかける。講義で取り上げる人物の思想と時代状況の中での生きざま・死にざまを学び、主体的な人生を生きる意志を涵養する。						
授業概要(目的・内容・方法)						
本講義は、大きく分けて、4期に分かれている。第1期（1回目から3回目）は中国における儒学・儒教の基本についての知識を学び、その後の大きな2つの流れに朱子学と陽明学がある事を学ぶ。次に本講義で取り上げる「陽明学」（と今では呼ばれる思想）を生んだ王陽明について人生と思想の基本概念を学ぶ（第2期にあたる4回目から7回目）。次いで、日本における儒学の流れ、とりわけ陽明学に影響を受けた近世の思想家と志士と呼ばれている幕末維新の思想家・政治家の思想や行動に学ぶ。これが第3期で（8回目から13回目）である。第4期目は、14回目と最終回であるが、昭和の思想家・文学者を取り上げた後、現代の政治・行政・経済の状況をどうみるか、現代はどのような時代であるかについて受講者相互の議論を通じて、これからの混迷の世の中をどう打ち破るかについて議論をしまとめとしたい。一方的講義ではなく、適宜、担当者と受講者は議論をしながら進めたい。また、本講義のタイトルには出ていない人物でもおりに触れ紹介する予定である。						
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)						
第 1回：「はじめに一陽明学とは何か？一講義の狙い一」 第 2回：「中国における儒学の基本一四書五経について一」 第 3回：「朱子学（宋学）と陽明学の成立について」 第 4回：「王陽明の人生・人となり」 第 5回：「王陽明の思想1 格物・良知・心即理」 第 6回：「王陽明の思想2 天理・人欲・知行合一」 第 7回：「王陽明の思想3 事上磨練・万物一体の仁」 第 8回：「日本儒学の系譜1 江戸時代一1 伊藤仁斎」 第 9回：「日本儒学の系譜2 江戸時代一2 中江藤樹・熊沢蕃山」 第10回：「日本儒学の系譜3 江戸時代一3 山田方谷・佐藤一斎・大塩平八郎」 第11回：「日本儒学の系譜4 幕末維新一1 佐久間象山・横井小楠」 第12回：「日本儒学の系譜5 幕末維新一2 吉田松陰・高杉晋作」 第13回：「日本儒学の系譜6 幕末維新一3 西郷隆盛・大久保利通」 第14回：「日本儒学の系譜7 昭和 安岡正篤・三島由紀夫」 第15回：「まとめ一現代はどのような時代か？現在の政治指導者の現状をどう見るか？」						
受講要件	近世の日本の志士に関心をもっている事。思想と政治の関係、更に儒学や日本思想に関心をもっている事が望ましい。知識の多少は問わないが、関心、志を重視する。					
評価基準および方法	（全て出席を前提として） （1）毎回のフィードバックシート（30％） （2）授業に対する参加度、貢献度、理解度（20％） （3）期末レポート（50％）を総合的に評価。出席そのものを評価の対象とはしない。 暗記による知識の定着を問うものは殆ど実施せず、感じたこと、考えた事をどれだけ自身の言葉で表現できるかをフィードバックシート、レポートで問う。オリジナリティを評価の対象とする。但し、レポート執筆に当たって最低限の知識は必要となる為、講義に全て出る事をレポート提出の条件とする。					
教科書	特に指定しない。講義で資料配布。右記の参考図書を初め、随時、（出来れば読む事の望ましい）参考図書を紹介する。		参考書	『伝習録』王陽明 溝口雄二訳 2005年 中公クラシックス 2005年、『西郷南洲翁遺訓』西郷隆盛 財団法人西郷南洲顕彰会 1976年、『朱子学と陽明学』島田虔次 岩波新書 1967年、『現代に甦る陽明学』吉田和男 麗澤大学出版会 2006年、『吉田松陰』海原徹 ミネルヴァ書房 2003、『吉田松陰一日一言』川口雅昭編 致知出版社 2006、『日本人の論語 『童子問』を読む』上・下 谷沢永一 PHP新書 2006年他、その都度指示。		
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【オフィスアワー】毎週水曜日午後【メール】【授業後】		その他	事前に連絡を頂ければ、正規のオフィスアワー以外の時間であっても議論に来てくれる事を大いに歓迎します。		